

山口市議会報告

Yamaguchi City Council Report

vol.18

地域政党
やまぐちの風

発行責任者
山口市議会議員 竹中一郎

浸水被害対策は大きな視点からの検討が必要

9月議会では「安全対策」「活力ある地域」「教育」の3つのテーマで議論しました。折りしも議会開会后、複数の台風が山口に接近・上陸したため、浸水被害対策は機を得た内容となりました。

令和4年 第4回山口市議会定例会 **質問と答弁**

浸水対策施設の維持管理について

▶質問

台風14号が山口県に接近し、県内各所において浸水被害等の爪痕を残した。山口市では様々な浸水対策施設を整備してきたが、その維持管理の状況について何う。



千坊雨水ポンプ場

▶答弁

職員が操作点検や目視点検等を年間を通じ定期的に行っている。日常的な点検と併せ、有事の際には臨機応変に対応し、万全の体制で施設管理を実施している。



問田雨水貯留施設

千坊井出2号取水ゲート

▶議会での主張

浸水対策施設について十分な機能効果を発揮させることができるように適切な維持管理を行い、災害に備えることが重要である。

大内地区中村橋の内水氾濫について

▶質問

台風14号の豪雨により大内地区の中村橋周辺が冠水したが、その経緯と対応について何う。



令和4年9月19日 大内地区中村橋付近の様子

▶答弁

県道194号山口秋穂線を挟む形で東側の住宅団地と、西側の市道において、問田川への排水不良が原因とみられる道路冠水が発生した。緊急対応が可能な業者へ依頼し、河川水位が自然流下可能なところへ下がるまでポンプ排水を実施した。

▶議会での主張

今後の対策・対応方法等については、部局横断的な協議を要望する。

やまぐち子ども未来型学習プロジェクトについて

▶質問

今年度の取組についてと、市教育委員会が山口情報芸術センター(YCAM)と連携することの優位性について何う。



モデル校の山口市立生雲小学校によるタブレット端末を活用した地域学習の様子とウェブサイトへの展開

▶答弁

今年度は、昨年度から実施している360°図鑑の全市展開を見据え、モデル校を増やして取り組む。学校教育の分野のみならず、市内の文化財等、地域資源の情報を組み込んでいくことで、子ども達の地域愛の醸成につなげる。市教育委員会としては、ICTの効果的活用のノウハウを有するYCAMがあるという優位性を生かし、今後もYCAMとの連携を図り、先進的な教育事業に継続的に取り組む。



360°図鑑
ウェブサイト

▶議会での主張

未来を生き抜く力を持った児童・生徒の育成に向け、未来の山口の授業が確立されることを要望する。

Achiro's Eye 気づいたこと
感じたこと

温暖化の影響を受け、毎年豪雨に備えた対策が求められています。

山口市の現状をみると、開発が進んで市街地が広がる一方で、浸水リスクが高くなっている場所が増えている面があるように思います。まちづくりという大きな視点から対策を検討する必要があるように感じます。



山口市農山村地域活性化 ビジネス支援事業について

▶質問

農山村地域活性化ビジネス支援事業への期待、また、今後、この事業を推進していくことで、農山村エリアの活性化にどういった効果を期待しているか伺う。

▶答弁

今回の審査委員会において採択された事業の目的は、地域に根差し、地域を盛り上げ、好循環をつくり出し、農山村エリアの活性化に貢献することに尽きると考えている。

▶議会での主張

事業が軌道に乗るように、産業交流スペースMegribaをはじめとしたKDDI 維新ホールに集まる支援機関を有効に活用していくことが必要である。



農山村地域活性化ビジネス支援事業審査委員会(KDDI維新ホール 産業交流スペースMegriba)

脱炭素先行地域づくりについて



脱炭素先行地域(電力需要地)

▶質問

中心市街地エリアを対象とした脱炭素先行地域づくりの取組が、「再エネ普及啓発や市民の脱炭素化への行動変容の促進」につながるとあるが、中心市街地への来街者数の増加及び中心商店街の経済活性化に具体的にどのようにつながるのか伺う。

▶答弁

若者世代や子育て世代などの、まちなか居住の促進を図るためのEVカーシェアリングの導入を始め、中心商店街の店舗等における経営基盤の強化を図るための省エネ設備等の導入支援、環境に優しい中心商店街としてのブランディング力向上や、非常用電源の確保を図るための中心商店街のアーケード周辺建物への太陽光発電設備の導入などの取組を考えている。

【地域脱炭素の取組を通じた中心市街地等へのメリット】

地域脱炭素の取組	中心市街地や中心商店街へのメリット	
EVカーシェア導入及び公共交通機関のEV化	“まちなか居住”の促進による若者世代等の増加!	まちなかの便利さと、生活コストの抑制を両立し、ゆとりのある生活を可能とすることで、若者世代や子育て世代を始めとしたまちなか居住を促進
省エネ設備/EMS [※] 導入支援 <small>※EMS:電力等エネルギーの使用状況を可視化・管理、需要予測に基づいた設備機器の制御を行うことで、エネルギー使用量を最小化するシステム</small>	来街者数の増加及び商店街の経済活性化!	脱炭素化に取り組む市民に対し、商店街等で利用可能なエコポイントを付与する仕組み等を構築することで、商店街利用者の増加や、店舗の売上増加、雇用創出等に寄与
再エネ普及啓発や市民の脱炭素化への行動変容の促進	“環境にやさしい”商店街として注目度が向上!	商店街の店舗やオフィスの電気を100%再エネの電力で賄うことは、“環境にやさしい”商店街としてブランド化ができ、アピールポイントとなる
アーケード周辺建物への太陽光発電設備の新規設置及び利用	電気料金の節減!	エネルギー管理システム(EMS)の導入によって省エネ効果が見込めるため、電力消費量の削減や月々の電気料金の節減につながる
	非常時にも安心して電気を使うことが可能!	太陽光発電に合わせて蓄電池を設置することで、停電時にも必要最低限の電気を使用することが可能になるなど、より安全安心暮らしへとつながる

▶議会での主張

「クールチョイス」の取組が今回の取組を契機として、オール山口の市民運動として、さらなる定着を果たされるよう要望する。

シェアサイクルについて

▶質問

市民にも浸透してきたように感じているが、昨年度の利用者の利用傾向や、利用実績について伺う。

▶答弁

シェアサイクル実証事業は、観光やビジネスで本市を訪問される方の二次交通として、また、市民の皆様の日常生活における移動手段として、自転車利用の可能性を検証するため、令和2年9月から実施している。令和3年度は、合計5千件弱の利用があり、月平均でも令和2年度の157件から398件へと大きく増加しており、事業が定着してきたものと考えている。ステーションの利用状況としては、「ホテルニュータナカ」が最も多く、次いで「山口市教育委員会駐輪場」となっている。



山口市役所のシェアサイクルステーション

▶議会での主張

令和3年7月より利用料金を15分あたり50円から30円に引き下げたことが利用を増加させた要因のひとつだと考えている。今後もさらなる利用促進対策の検討を求める。

地域政党 やまぐちの風は、市民の皆様の声を大事にすることを第一の信条として活動していることから、市議会での議論について、自身が撮影した画像等と併せて、定例会ごとにわかりやすくお伝えしていくためにつくっているのがこの会報です。是非、ご覧いただき、お気軽にご意見等をお寄せいただければ幸いです。

